

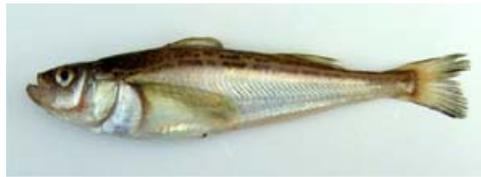
# 平成19年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ハタハタ

学名 *Arctoscopus japonicus*

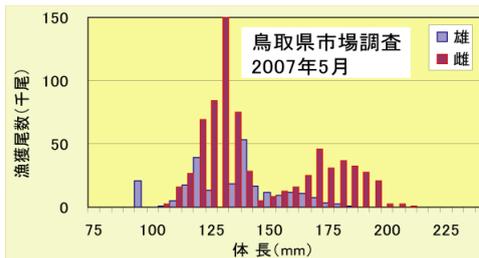
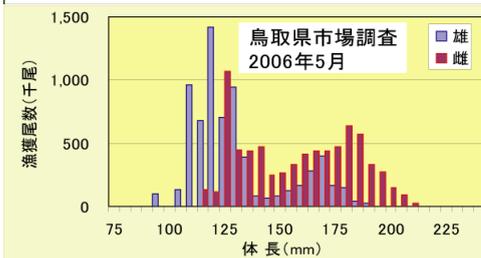
系群名 日本海西部系群

担当水研 日本海区水産研究所



## 生物学的特性

寿命: 5歳  
 成熟開始年齢: 雄:1歳(100%)、雌:2歳(100%)  
 産卵期・産卵場: 12月の極短い一時期、沿岸の藻場、西部にはまとまった産卵場がない  
 索餌期・索餌場: 未成魚期以降の分布と回遊に関する知見は少ない  
 食性: 端脚類、橈脚類、オキアミ類、イカ類、魚類  
 捕食者: 大型魚類によって捕食されるが、詳細は不明

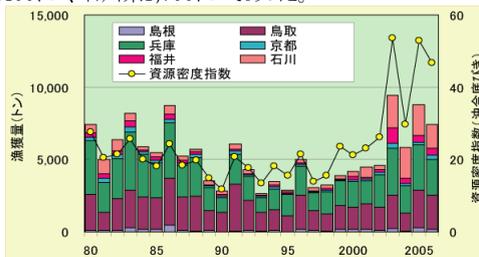
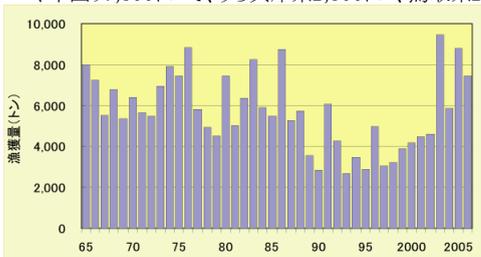


## 漁業の特徴

兵庫県以西では沖合底びき網、京都府以北では小型底びき網によって主に漁獲され、例年兵庫県と鳥取県の水揚げが多い。漁獲の中心は禁漁期前の4~5月、禁漁明けの9月である。11~12月の漁獲量は少ない。

## 漁獲の動向

当海域におけるハタハタの漁獲は、過去50年間ほど5,000トン前後の水準を維持してきた。1970年代後半は韓国及び日本海北部において漁獲量が激減したが、この海域ではハタハタの市場経済的な重要性が高まったものの漁獲は大きく減少しなかった。1990年代半ばから漁獲量は漸増傾向に転じている。2006年の海域全体の漁獲量は前年をやや下回り7,500トンで、うち兵庫県2,500トン、鳥取県2,400トン、石川県1,700トンであった。



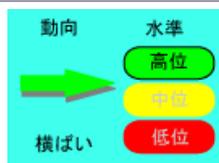
## 資源評価法

漁獲量の推移とともに、沖合底びき網漁業漁獲成績報告書に基づく漁場別漁獲統計を解析し、1980年以降の資源密度指数\*の推移を調べた。加えて、鳥取、兵庫及び福井県における漁獲物の体長組成から、近年の加入状況、漁獲物の年齢構成を考察した。

\*資源密度指数: 10分マス目で設定された漁区ごとの月別CPUE(漁獲重量(kg)/ひき網回数)を一定期間(年または月)、ある海域内(中海区または小海区)で集計した値を有漁漁区数で除したものの。

## 資源状態

西部海域全域で見ると、2003年に過去50年間で最大の漁獲量、過去25年間で最も高い資源密度指数を記録したが、これは極めて豊度の高い2001年級によるものと考えられる。2004年にはこれらの値が急落したものの、2005年には再び豊度の高い2003年級により資源密度指数が高い値となった。2006年には全域の資源密度指数がやや減少したが、それでも、資源状態は高い水準にあった。その動向は、急激な資源増大があった2003年以降の資源密度指数の振れが大きいこと、さらに2001年級を明らかに超えるような卓越年級は現れていないことから、おおむね横ばい傾向にあったと判断される。2007年に入ってから、資源水準は全域でやや低めに推移していると思われる。



## 管理方策

ハタハタの日本海西部系群は、2003年以降高い水準を維持している。これは、2001年級と2003年級が高水準であったことに大きく起因しているが、その後の年級はこれらの豊度には及ばないと見られる。2007年に入ってから、資源水準は全域でやや低めに推移してきたと見られる。資源を構成する1歳魚(2006年級)と2歳魚(2005年級)の豊度はやや低いことが危惧された。漁獲量のある程度おさえて資源の保全に努めるとともに、今後の資源動向を見極める必要がある。

	2008年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	7,900トン	1.0Cave4-yr	—	—
ABCtarget	6,300トン	0.8・1.0Cave4-yr	—	—

#### 資源評価のまとめ

- 2006年の漁獲量と資源密度指数は前年に比べていくぶん減少したが、資源の水準は高い水準だった
- 資源の動向は、横ばい傾向にあった
- 2007年に入ってから、資源水準は全域でやや低めに推移していると見られる

#### 管理方策のまとめ

- 近年の良好な資源状況を悪化させないよう、漁獲量のある程度おさえて資源の保全に努める
- 2007年現在、資源を構成する1歳魚(2006年級)と2歳魚(2005年級)の豊度はやや低いと思われるので、今後の資源動向には特に注意が必要である

資源評価は毎年更新されます。